

## 第3章

### みんなが輝き

健康で笑顔があふれるまち すずか



◆第3章体系図

めざすべき都市の状態	施策	単位施策
09 地域で高齢者がいきいきと元気に暮らしていること	091 地域に根ざした高齢者福祉の推進	0911 高齢者福祉の推進
		0912 地域包括ケアシステムの推進
10 地域で障がい者が夢や生きがいを持って暮らしていること	101 共生社会実現に向けた障がい者福祉の推進	1011 障がい者福祉の推進
		1012 障がい者の社会参加の促進
11 誰もが安心して医療を受けていること	111 医療体制・制度の充実	1111 医療体制の充実と適切な受診行動の普及啓発
		1112 福祉医療費助成による適切な医療の提供
		1113 国民健康保険などの安定的な運営
12 市民が心身ともに健康で自立して暮らしていること	121 健康の維持と増進	1211 健康づくりの推進
		1212 健康診査の推進
	122 自立した暮らしの充実	1221 地域福祉の推進
		1222 生活保障の確保

## めざすべき都市の状態09

### 「地域で高齢者がいきいきと元気に暮らしていること」

#### ■成果指標1：65歳以上の高齢者のうち、地域の活動に参加している市民の割合

現状値 (2015年度)	53.3%	目標値 (2023年度)	66.0%
-----------------	-------	-----------------	-------

#### 現 状 認 識

高齢化の進展により、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、認知症高齢者が増加しています。また、要介護認定者数の増加による介護保険サービス利用が増大する一方で、介護サービス提供の人材確保に困難があるなど、高齢者を取り巻く環境は大変厳しい状況です。

#### 将来展望を踏まえた課題

「団塊の世代」が75歳を迎える2025（平成37）年を視野に様々な取組が必要となっており、高齢者が要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるよう、地域包括ケア体制を確立する必要があります。また、そのための地域の支え合いの仕組みの構築も不可欠です。

さらに、介護保険制度の持続には、制度理解のための啓発及び介護保険サービスの適正な利用と、高齢者が要介護状態になることを予防し、いきいきと元気で自立した状態を維持するための取組を推進する必要があります。

#### 行政の使命（ミッション）

高齢者が、生きがいを持って、いつまでも元気に過ごすことができるよう、地域包括ケアシステムの構築を進め、予防施策を充実させるとともに、要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしができる環境を整備します。

## 施策－０９１：地域に根ざした高齢者福祉の推進

－担当部：健康福祉部－

### 【施策の概要】

介護保険事業の運営を維持するとともに、高齢者が住み慣れた地域や家庭でいつまでも元気に暮らせる環境づくりを推進します。

### ◇単位施策－０９１１：高齢者福祉の推進

－担当課：長寿社会課－

目的	高齢者が安心して過ごすことができる環境を整備します。			
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・要介護状態の高齢者やその家族に対する在宅介護を支援します。</li><li>・独居や高齢者のみの世帯などに対する日常生活を支援するための施策を推進します。</li><li>・高齢化の進展に対応する環境整備に取り組みます。</li></ul>			
成果指標	指標名	高齢者の在宅生活を支えるための事業利用者数	目標値 (2019年度)	1,300人
	指標設定理由	高齢者の在宅生活を支えるための在宅福祉制度の利用者が増えることは、安心して自宅で過ごす高齢者が増加することにつながるため。	現状値 (2015年度)	954人 (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画	鈴鹿市高齢者福祉計画			

◇単位施策－０９１２：地域包括ケアシステムの推進

－担当課：健康福祉政策課－

目的		高齢者になっても人生の最期まで住み慣れた地域で安心して生活することができるよう、医療・介護・保健・福祉の連携体制を整備するとともに、地域住民主体の支え合う仕組みを構築します。		
概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療や介護の提供体制を整備するとともに、地域で支え合う体制を構築して、多角的に高齢者の生活を支援します。</li> <li>・高齢者が元気で健康的に暮らせるように介護予防事業やいきいきボランティア事業などの施策を推進します。</li> </ul>		
成果指標	指標名	生活支援コーディネーター※数（累計）	目標値 （2019年度）	29人
	指標設定理由	地域で支え合う体制づくりの中核となる、「生活支援コーディネーター」を地域づくり協議会単位で配置することは、地域住民主体の体制整備が推進されることにつながるため。	現状値 （2015年度）	0人
単位施策を推進する個別の計画		鈴鹿市高齢者福祉計画		

※生活支援コーディネーター…高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援サービスなどの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たす人のこと。

## めざすべき都市の状態 10

### 「地域で障がい者が夢や生きがいを持って暮らしていること」

- 成果指標1：障がい者支援のための活動など、障がい者と交流する機会を持ったことがある市民の割合

現状値 (2015年度)	7.2%	目標値 (2023年度)	15.0%
-----------------	------	-----------------	-------

- 成果指標2：50人以上の従業員を雇用する企業のうち、障がい者を1人以上雇用している企業の割合

現状値 (2015年度)	73.6% (2014年度)	目標値 (2023年度)	85.0%
-----------------	-------------------	-----------------	-------

#### 現 状 認 識

障がい者の共生社会実現に向け、社会参加機会の確保は十分ではない状況です。

就労支援事業などの効果もあり、ハローワーク鈴鹿管内における障がい者の雇用率は県下では上位にあります。また、障がい者が地域で自立し、社会参加できるよう環境づくりに取り組んでいるところですが、社会的障壁もあり、入院や施設入所から地域移行できる障がい者は少ない状況です。

#### 将来展望を踏まえた課題

障がい者の自己決定、自己選択の視点に立った相談支援によって、障がい者が必要とするサービスが利用できる体制を構築する必要があります。

また、障がい者の職域拡大や雇用を安定させる取組などを通じて、障がい者が地域で生活できる環境を整える必要があります。

#### 行政の使命（ミッション）

障がい者が、地域の中でいきいきと暮らし続けることができる社会づくりを推進します。

## 施策－１０１：共生社会実現に向けた障がい者福祉の推進

－担当部：健康福祉部－

### 【施策の概要】

共生社会の実現に向け、障がい者の就労の充実、生活基盤の整備、地域社会に参加できる環境を整備します。

### ◇単位施策－１０１１：障がい者福祉の推進

－担当課：障がい福祉課－

目的	障がい者の生活状況に合った障がい福祉サービスを推進します。			
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者が自らの選択で生活できる環境を整備します。</li> <li>障がい者が、地域で自立的な生活を営み、自己決定・自己選択のために必要なサービスを充実させます。</li> <li>障がい者のライフステージに応じ、途切れのない相談支援を行います。</li> </ul>			
成果指標	指標名	指定特定相談支援事業所※数(累計)	目標値 (2019年度)	15事業所
	指標設定理由	指定特定相談支援事業所が増えることは、相談支援体制が充実し、障がい者の生活状況に合った障がい福祉サービスの利用につながるため。	現状値 (2015年度)	13事業所 (2015.9.1 現在)
単位施策を推進する個別の計画	すずかハートフルプラン（鈴鹿市障害者計画，鈴鹿市障害福祉計画）			

※指定特定相談支援事業所…障がい者のサービス等利用計画についての相談や作成などの支援を行う事業所のこと。

◇単位施策－１０１２：障がい者の社会参加の促進

－担当課：障がい福祉課－

目的		障がい者が地域社会に参加しやすい、生きがいを持って暮らせる社会状況を整備します。		
概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者の地域移行を支援し、共生社会実現のための仕組みづくりを構築します。</li> <li>障がい者の多様な就労先を確保するため、職域を拡大し、障がい者の適性に合った就労を促進します。</li> <li>障がい者の社会参加を進めるため、社会的障壁の除去や、啓発に取り組みます。</li> </ul>		
成果指標	指標名	グループホームなどにおいて、地域で暮らす障がい者数（累計）	目標値 （2019年度）	120人
	指標設定理由	グループホーム、福祉ホームなど居住系サービスを利用して、地域で生活する方が増えることは、障がい者の社会参加の促進につながるため。	現状値 （2015年度）	99人 （2015.9.1現在）
単位施策を推進する個別の計画		すずかハートフルプラン（鈴鹿市障害者計画，鈴鹿市障害福祉計画）		

## めざすべき都市の状態 1 1 「誰もが安心して医療を受けていること」

### ■成果指標 1：主治医やかかりつけの医療機関を持っている市民の割合

現状値 (2015年度)	76.7%	目標値 (2023年度)	80.0%
-----------------	-------	-----------------	-------

### ■成果指標 2：人口10万人当たりの医療施設件数

現状値 (2015年度)	121.3件 (2012.10.1現在)	目標値 (2023年度)	125.3件
-----------------	-------------------------	-----------------	--------

### 現 状 認 識

一次・二次救急医療機関が当番制にて、また、応急診療所が365日の救急医療体制を整備していますが、慢性的な医師・看護師不足問題や核家族化などを要因とする軽症の受診、緊急性のない患者による夜間・休日の一般診療時間外での救急外来受診など、受診行動の変化もあり、受診者が増加しています。また、夜間の小児救急については、市外の救急医療機関へ搬送されていることから、一次・二次救急医療体制を安定的に維持するための取組が求められています。

市民の医療を支える「国民健康保険」は、高齢化に伴う医療費の増加や被保険者数の減少により厳しい財政状況が続いています。

また、福祉医療費（障がい者・一人親家庭等・子ども）助成により経済的な負担が解消され受診しやすい環境が整備されています。

### 将来展望を踏まえた課題

必要なときに必要な医療を受けることができるように、適切な受診行動に対する市民の理解を進め、限られた医療資源の効率的な利用につなげる必要があります。

また、小児医療ニーズに対応するため、小児科医及び産科医の確保に取り組み、小児救急医療体制の整備につなげる必要があります。

高齢化の進展により、在宅医療を必要とする市民の増加が想定され、一次・二次救急医療機関の連携や救急医療体制の安定的な維持、国民健康保険などの医療保険の安定的な運営や医療費助成制度を拡充する必要があります。

### 行政の使命（ミッション）

医療体制を安定的に維持するとともに、市民自らの適切な受診行動によって誰もが安心して医療を受けることができる環境を整備します。

## 施策－１１１：医療体制・制度の充実

－担当部：健康福祉部－

### 【施策の概要】

市民が必要なときに安心して医療が受けられるよう救急医療体制の整備，福祉医療費の助成，国民健康保険などの医療保険の安定的な運営を図ります。

医療機関の適正な受診行動について普及啓発を促進し，医療資源の効率的な利用を図ります。

### ◇単位施策－１１１１：医療体制の充実と適切な受診行動の普及啓発

－担当課：健康づくり課－

目的	市民が急な病気やけがのとき，いつでも安心して医療機関を受診することができるように一次・二次救急医療機関*が連携し，患者の状況に応じた受入れ体制を整備します。			
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児をはじめとする救急医療体制の整備を図ります。</li> <li>・一次・二次救急医療機関の効率的な連携を図ります。</li> <li>・応急診療所の運営を推進します。</li> <li>・かかりつけ医を持つこと及び医療機関の適正な受診について普及啓発を図ります。</li> <li>・医療的ケアを必要とする小児などが在宅で療養生活ができるよう支援します。</li> </ul>			
成果指標	指標名	一次・二次救急医療機関の受入れ患者数	目標値 (2019年度)	22,400人
	指標設定理由	一次・二次救急医療体制を安定的に維持することにより，受入れ患者数が一定に推移するため。	現状値 (2015年度)	22,333人 (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画				

※一次・二次救急医療機関…一次救急医療機関とは，応急診療所，高木病院，塩川病院，村瀬病院を指し，二次救急医療機関とは，鈴鹿中央総合病院，鈴鹿回生病院を指す。

◇単位施策－ 1 1 1 2 : 福祉医療費助成による適切な医療の提供

－担当課：保険年金課－

目的		市民が、安心して適切な医療が受けられるよう、障がい者・一人親家庭等・子どもに係る医療費の助成を実施します。		
概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者・一人親家庭等・子どもの医療費の自己負担分を助成します。</li> <li>子育て支援の観点から子育て世代の負担軽減を図るため、子ども医療費助成制度を拡充します。</li> </ul>		
成果指標	指標名	福祉医療費助成対象者数	目標値 (2019年度)	38,200人
	指標設定理由	福祉医療費助成対象者が増加することは、経済的な負担が軽減され、安心して受診できている状況が作られていることにつながるため。	現状値 (2015年度)	37,586人 (2014年度末)
単位施策を推進する個別の計画				

◇単位施策－ 1 1 1 3 : 国民健康保険などの安定的な運営

－担当課：保険年金課－

目 的	市民が、安心して適切な医療が受けられるよう、国民健康保険などを安定的に運営します。			
概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費の増加抑制を図るため、特定健康診査・特定保健指導、人間（脳）ドック、ジェネリック医薬品の利用勧奨などを実施します。</li> <li>・国民健康保険税を適正に賦課し、収納率を向上します。</li> <li>・後期高齢者医療制度の事務を適正に執行します。</li> </ul>			
成 果 指 標	指標名	国民健康保険事業の支出に対する収入の割合	目標値 (2019年度)	100%
	指標設定理由	支出に対する収入の割合の向上は、国民健康保険財政の健全化を示し、国民健康保険の安定的な運営につながるため。	現状値 (2015年度)	98% (2014年度)
単位施策を 推進する 個別の計画				

## めざすべき都市の状態 1 2

「市民が心身ともに健康で自立して暮らしていること」

■成果指標 1：健康維持増進のために意識的に体を動かしたり，規則正しい食生活を行っている市民の割合

現状値 (2015年度)	65.0%	目標値 (2023年度)	70.0%
-----------------	-------	-----------------	-------

■成果指標 2：健康寿命

現状値 (2015年度)	男：78.54歳 (2014年度)	目標値 (2023年度)	男：79.60歳
	女：80.40歳 (2014年度)		女：81.50歳

### 現 状 認 識

がんによる死亡率の増加や，メタボリックシンドロームの該当者の増加など，生活習慣に関連する疾患が増加しています。

少子高齢化に伴い，高齢者世帯の増加や核家族化が進展する中，地域社会や家庭・家族のあり方も変化しています。また，福祉ニーズも複雑，多様化し，社会保障費の増加，低所得者層の増加などとも相まって，福祉・社会保障制度を取り巻く現状は大変厳しい状況です。

### 将来展望を踏まえた課題

少子高齢化が進み，社会保障費の一層の増大が想定される中，少しでも長く心身ともに健康で，自立した生活を営めるように，地域を構成する多様な主体（市民，団体，事業者，市・関係機関など）が協力しながらそれぞれの役割を担い，市民の「健康寿命」を延ばしていくとともに，世帯に対する経済的な支援により自立を促進する取組を推進する必要があります。

### 行政の使命（ミッション）

生活の保障を確保するとともに，市民の生活習慣の改善や健康増進，疾病予防を支援する環境を作ることなど，市民自らの取組を促す普及啓発活動とともに，市民自らが自主的に行動できる機会を充実し，互いに支え合って，誰もが住み慣れた地域で安心して心豊かに暮らし続けられるようにします。

## 施策－１２１：健康の維持と増進

－担当部：健康福祉部－

### 【施策の概要】

健康づくりに関する啓発活動を進めるとともに、疾病の早期発見、予防を行います。

### ◇単位施策－１２１１：健康づくりの推進

－担当課：健康づくり課－

目的	多様な機会を通じて健康づくり活動を推進し、市民の健康への関心を高めます。			
概要	・健康づくりに関する知識が普及するよう啓発活動を推進します。 ・健康教育・相談・指導事業の充実を図ります。			
成果指標	指標名	健康教育・相談・指導を受けた人数	目標値 (2019年度)	50,000人
	指標設定理由	健康教育事業などの参加者が増加することは、より多くの市民が健康づくりに取り組み、健康意識の高まりにつながるため。	現状値 (2015年度)	45,547人 (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画	鈴鹿市健康づくり計画			

◇単位施策－１２１２：健康診査の推進

－担当課：健康づくり課，保険年金課－

目的		市民が，適切に健康診査・検診・予防接種を受けることにより疾病の予防と早期発見につなげます。		
概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査・各種検診及び予防接種事業を充実します。</li> <li>疾病の早期発見・予防に取り組みます。</li> </ul>		
成果指標	指標名	健康診査・検診・予防接種の受診者数	目標値 (2019年度)	172,500人
	指標設定理由	健康診査などの受診者数が増加することにより，疾病の早期発見・予防効果が高まり，健康寿命の延伸につなげることができるため。	現状値 (2015年度)	156,887人 (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画		鈴鹿市健康づくり計画 鈴鹿市特定健康診査等実施計画		

## 施策－１２２：自立した暮らしの充実

－担当部：健康福祉部－

### 【施策の概要】

市民の多様な福祉ニーズに対応できるよう、地域福祉を推進するとともに、誰もが住み慣れた地域で自立し、心豊かに暮らせるよう支援するために、法律に基づく扶助や支援を適正に行います。

### ◇単位施策－１２２１：地域福祉の推進

－担当課：健康福祉政策課－

目的	地域福祉の推進により、誰もが地域で安心して心豊かに暮らせるようにします。		
概要	・地域を構成する多様な主体（市民、団体、事業者、市・関係機関など）が役割を分担し、福祉ニーズに対応できるように活動を支援します。 ・福祉意識を高める機会を提供し、地域福祉を推進します。		
成果指標	指標名	「ふれあい広場鈴鹿 <sup>*</sup> 」への参加及び協力者数	目標値 (2019年度) 5,500人
	指標設定理由	「ふれあい広場鈴鹿」への参加及び協力者数が増えることは、様々な立場の方が互いの交流の中で福祉意識を高めることになり、地域福祉の推進につながるため。	現状値 (2015年度) 5,083人 (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画	第2期鈴鹿市地域福祉計画		

※ふれあい広場鈴鹿…「福祉の輪」を広げることを目的に、市民・団体・企業・施設・福祉協力校・ボランティア参加の下、開催されるイベントのこと。

◇単位施策－１２２２：生活保障の確保

－担当課：保護課，健康福祉政策課，保険年金課－

目的		福祉ニーズが多様化する中，生活が保障されることにより，誰もが自立して暮せるように支援します。		
概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>生活保護制度を適正に運用し，扶助や支援を行います。</li> <li>生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業<sup>※1</sup>，住居確保給付金，子どもの学習支援事業などにより，自立に向けての助言，支援を行います。</li> <li>災害による住宅の焼失，損壊など，被害を受けた市民に対し，応急対策として見舞金を支給することなどにより，生活の安定を支援します。</li> </ul>		
成果指標	指標名	新規生活相談受付件数	目標値 (2019年度)	40件/月
	指標設定理由	市民が抱えている問題がより複雑化・深刻化する前に積極的に相談を受け付けることで，適切な支援へとつなげることができるため。	現状値 (2015年度)	37件/月 <sup>※2</sup> (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画		第2期鈴鹿市地域福祉計画		

※1 自立相談支援事業…生活困窮者自立支援法（平成25年法律第105号）に基づき各自治体が発行する必須事業で，生活に困窮している人を早期に把握し，様々な問題を複合的に抱えている人に対し，個々の状況に応じた支援につなげる事業のこと。

※2 現状値…新制度発足前の生活保護新規面接相談受付件数の実績。新制度発足により，「生活保護新規面接相談」が「新規生活相談」に変更となっています。